

白老有機農業塾のこれから

地域の人たちに広めたい「農的生活」



← 玉ネギのタネまき

↓ 白老町里山の風景



農業塾の
みなさんと
←

白老は海と山に囲まれた空気がきれいなところです。私は秋の収穫が終わり、雪が降る頃から健康のため、毎日3km歩くことにしています。この3kmのコースで、美しい白老の自然に触れ合うことができます。

家から30m位歩いた川にダイサギとコサギがいます。真っ白の羽で大型のサギにあうと、とても嬉しくなります。しばらく歩くと、雑木林の中から聞きなれない声を出す鳥がいます。カササギです。カラスの仲間ですが翼を広げると白く、黒い体が太陽の光にあたると青や緑に見えるきれいな鳥です。カササギは多い時には10羽位の群れをつくって飛んでいます。1・5km位歩くとききれいな水が流れている川で白鳥2羽に出合うことがあります。真っ白な白鳥はとてきれいです。

白老の自然

斎藤 昭 (さいとう あきら) プロフィール

1943年 北海道生まれ。北海道学芸大学札幌分校(現北海道教育大学札幌校)卒業。教員として32年間勤務し、第2の人生は「農」的生活を楽しんでいます。戦中戦後の混乱期は家族全員で力を合わせて、乗り越えてきました。子どもの頃から畑で食べ物を自給できれば、貧しくとも生きていけるという強い気持ちが育ちました。

2000年に退職し、10年かけて有機栽培を可能とする環境整備、野菜の栽培試験、種採りの調査をしてきました。

2010年、国(厚生労働省)の事業「農業によるまちづくり人材養成訓練」に参加。多くの研修生から「農業をしたいが、壁になることがたくさんあってできない」という嘆きを聞いてきました。

2011年、白老有機農業塾を開設、6年間代表として勤め、基礎講座、講習会等を実施してきました。(2012年、NPO法人を設立、代表理事となる。)

2015年法人解散)

現在、日本有機農業研究会幹事／日本有機農業学会会員／北海道たねの会会員

〒059-0642 北海道白老町竹浦 297-125

TEL / FAX 0144-87-3315

携帯 090-3018-6038

e-mail umigiri_no_oka@yahoo.co.jp



白老有機農業塾の塾生が栽培した有機野菜の販売

この川は秋になると鮭の遡上が見られます。狭い川を上流目指して泳ぐ姿は圧巻です。12月の初めころには何匹かの鮭の産卵行動が橋の上から見られます。鮭の産卵は川の草が多い所で見られ、ブロックで覆われている所には鮭は産卵しません。産卵を終えた鮭は川の端で一生を終えます。鮭の死体の周りには大型の鷺鷹が集まり鮭を食べています。

最近では地球温暖化のためか濃霧が極端に少なく、気温の高い日が多くなっています。

また、都市部と違って空き地、荒地はたくさんあり、野菜を作る畑は十分にあります。実際に家の周りの荒地、里山の持ち主に問い合わせると、ほとんどの方が無料で貸してくれます。有料でも低価格です。土地の管理を兼ねているので、持ち主からも喜ばれるのです。

多くの人が栽培は難しいと言っていますが、火山灰土の改良、温度管理ができる施設（ビニールハウス）があれば、全国の野菜を収穫できます。

2 今から約10年前、農業塾開設1年目、30名の塾生が家庭菜園で、農薬や化学肥料を使わないで54種類の品目を栽培しました。塾生の中に有機農業を目指す青年2人（白老町有機農業者第1号）が5haの畑でかぼちゃ、だいこん、じゃがいも等を栽培し、販売しました（写真上）。この姿を見て、多くの塾生が刺激を受けました。「農」的生活を始める人が増えたのはこの時期からです。

3 農業塾の取り組みの中から指導者が出ています。日本有機農業研究会会員6名が中心になっています。

「小規模・家族農業」の取り組みについて

大規模農業、企業的な農業は環境汚染、水資源の問題、気候変動等を引き起こしました。国連は、これらの問題を解決する方向として「小規模・家族農業」を決定したのだと思います。

気候変動は私の菜園でも影響を受けています。一つは、大豆に裂皮粒やしわ粒が見られました。この現象は成熟期に高温にあってできると言われています。

もう一つは、在来種の白老いんげん、ベニバナインゲンが発芽

ます。

このような自然の営みを目の前で見られるのです。NHK「さわやか自然百景」が放送されていますが、私の目の前の状況はテレビでなく、現実そのものなのです。

3kmを歩き終えてわが家の近くに帰ると、周りにはスズメ、カラスがいます。スズメもカラスも私の歩くコースで大事な友達です。

白老有機農業塾の取り組みから見えてきたこと

1 白老町は北海道太平洋側西部に位置し、5月中旬から8月中旬にかけて濃霧が発生しやすく、低温と日照不足に見舞われます。そのため、「白老町のような濃霧地帯は畑作物の栽培が難しい」といわれ、畜産（肉牛）が中心に行われています。

時期が低温と重なり、土中で少し芽を出した頃、今度は高温になり芽が腐ってしまい全滅してしまいました。全部蒔き直しましたが、完熟時期は秋の終わり頃になり霜被害にあって、種は僅かしか収穫できませんでした。

北海道でこのような状態が見られたことは、今後もっとひどい状況に見舞われると予想されます。

今年は何連「家族農業の10年」の1年目になります。白老有機農業塾は次の取り組みをしていこうと考えています。

1. 『農家が教える 野菜づくり』から学ぶ

『農家が教える 野菜づくりのコツと裏ワザ』（農文協）。この本は画期的な栽培法を掲載しています。私も実際に栽培してみても、このような技術を身につけて栽培に望むなら、楽しくできると思っています。

2. 「農」についての学習を深める

- ① 小規模・家族農業の役割
- ② 種子の権利
- ③ 作物、草が土を作る
- ④ 地球温暖化
- ⑤ 種子法、種苗法



3. 地域に学ぶ場所を作る 白老町2か所、登別市1か所

私は「農」的生活をする人が地域に広がることを目指して、これからも頑張っていきたいと思っています。